

市長記者会見記録

日時：2017年12月22日（金）14時00分～14時24分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：平成29（2017）年川崎市10大ニュースの決定について（総務企画局）

<内容>

《平成29（2017）年川崎市10大ニュースの決定について》

司会： ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は、「平成29（2017）年川崎市10大ニュースの決定について」となっております。

それでは、福田市長からご説明いたします。市長、よろしく願いいたします。

市長： それでは、平成29年の年末に当たり、「川崎市10大ニュース」が決定いたしましたので、発表させていただきます。

10大ニュースは、1年を振り返り、市民の視点から市政や市全般にわたる動きがどのように捉えられているかを把握し、今後の市政運営の参考とするとともに、市の取り組みや魅力ある資源を発信することで、市のイメージアップを図ることを目的として、毎年実施させていただいております。

決定方法としましては、平成29年に市内で発生した事柄について、お示しした11月上旬までのニュース候補と自由意見をもとに、得票数の多い順に1番から10番までを「川崎市10大ニュース」といたしました。

投票状況につきましては、配付資料の1ページ目のとおり、投票者数は5,078人で、投票を開始した平成10年以来、最多となりました。

投票結果につきましては、資料の次のページ、「平成29年川崎市10大ニュース投票結果」をごらんください。1位は、2,489票を獲得した「川崎市の人口が150万人を突破しました！」でございます。続いて第2位は「市立中学校で完全給食実施」、第3位は「川崎フロンターレ J1リーグ戦で初優勝！」、第4位は「川崎市長選 福田紀彦市長が再選」、第5位は「JR川崎駅中央北改札、先行開業」となりました。以下、20位までのニュースは資料のとおりでございます。

上位に入ったニュースの感想といたしまして、まず第1位を獲得した「川崎市の人口が150万人を突破しました！」につきましては、全国的に人口減少が続く中、自然増が全国トップであり、特に若い世代に選ばれ、成長を続けている元気なまちであることを市民の多くの方々にも知っていただき、より一層川崎に愛着を感じていただけたものと思います。今後も、安心して子育てができ、働き続けることができる、川

崎をもっと住みやすいまちにする取り組みを進め、「最幸のまち かわさき」を目指してまいります。

第2位の「市立中学校で完全給食実施」につきましては、1月の4校を皮切りに、9月の南部学校給食センター、12月の中部・北部学校給食センターの稼働により、市立中学校全52校で完全給食が始まりました。健康給食をコンセプトとして、市内産の農産物を取り入れたメニューを提供するなど、食育の充実を目指していきます。

第3位の「川崎フロンターレ、Jリーグ初優勝！」につきましては、2017明治安田生命J1リーグ戦において、最終節で劇的な逆転での優勝を遂げ、念願の初タイトルを獲得しました。10大ニュース投票期間中のニュースで、当初のニュース候補一覧にはなく、また、投票可能な期間が5日間という短い期間であったにもかかわらず、自由意見のみで1,820票もの投票を集めたということです。ほんとうにサポーターや市民の方々の喜びの大きさが伝わってまいります。

また、川崎フロンターレに関するニュースは、6位のルヴァンカップ準優勝と合わせると3,286票と、第1位の得票数を大きく上回っており、市民の皆様にも愛されるクラブであることを改めて実感いたしました。

第4位には、「川崎市長選 福田紀彦市長が再選」がランクインしました。市民の皆様から賜ったご支持にお応えすべく、これからも全力で取り組んでまいります。

第5位の「JR川崎駅中央北改札、先行開業」につきましては、JR川崎駅へのアクセス向上と混雑緩和に向け整備を進めていた新たな改札口が6月に先行開業いたしました。来年2月には新たな北口通路の供用開始と行政サービス施設「かわさき きたテラス」のオープンが予定されておまして、新しい川崎の玄関口となるよう取り組んでまいります。

全体の感想といたしましては、今年は「南武線90周年」や「日本民家園開園50周年」「リエカ市との姉妹都市提携40周年」など、川崎市の歴史を思い起こさせるニュースとともに、中学校で完全給食実施や働き方改革のような新しい取り組みが動き始め、「健幸福寿プロジェクト」では一定の成果が挙がるなど、まさに成長と成熟の調和が感じられる一年として、市民の皆様の印象にも残ったのではないのでしょうか。

多くあるスポーツに関するニュースの中で、投票で上位となった川崎フロンターレに関しましては、小林悠選手の得点王獲得とJリーグ最優秀選手賞受賞や、多くのサポーター、市民の方々と喜びを分かち合った優勝記念パレードの実施など、明るいニュースが続きました。また、川崎ブレイブサンダース、NECレッドロケッツなどのかわさきスポーツパートナーが好成績をおさめ、先日18日には富士通フロンティアーズがアメリカンフットボールのJAPAN X BOWLを連覇し、三度目の優勝を

飾りました。P A R A フェスの開催といった、かわさきパラムーブメントの取り組みも次々に行われ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運も高まった一年だったと感じております。

平成29年川崎市10大ニュースの発表は以上でございますが、来年も市民の皆様にとって明るい話題が多いよき一年となることを願っております。

私からは以上です。

司会： ありがとうございます。それでは、ただいまご説明いたしました平成29（2017）年川崎市10大ニュースの決定についての質疑に入らせていただきます。

なお、市政一般に関する質疑については、本件の質疑が終了後、改めてお受けいたします。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

幹事社： 幹事社です。10大ニュースがあったんですが、改めて、この一年を振り返られまして、どのような一年だったのか、市長として、漢字一文字であらわすとしたら、どんな年なのかということ。

市長： 全体を通して非常に明るい話題が多かった一年だったと思います。繰り返しになりますけれども、特にスポーツの世界で、川崎フロンターレをはじめスポーツパートナーの皆さんが大変頑張ってくださって、川崎を大いに盛り上げていただいたと思っていますし、全体としても非常に明るい話題が多かったんじゃないかと思っています。

今年の私の漢字の一文字、既に書いて用意してきました。これです。「超」。

（写真撮影）

幹事社： 「超」を選ばれた理由等をご説明いただければ。

市長： 150万人を超えてという「超」と、川崎フロンターレの活躍もこれまでを超えて、これまでの歴代の成績を超えて頂点に立ったということと、それから、思い出深いというか、感慨深いところと言えば、健康給食が始まって、今までの給食の概念を超えるというか、そういった超えたものが多かったのではないかという意味で「超」にいたしました。

幹事社： なるほど。わかりました。

あわせて、今、「超」という言葉を掲げられましたけれども、来年をどんな年にされたいか、来年は何を超えていきたいかというもの、何か思っていることがあれば教えてください。

市長： やっぱり課題が山積しております。いつも言っていることで、ありがたいこととにでありますけれども、子どもさん、若い人に選ばれているということとありますけれども、それに伴って、やはり待機児童の問題だとかということも引き続き力を込

めてやっていかなければなりませんし、同時に、やはり地域包括ケアシステムの取り組みも第2段階に入っていくということで、さらに地域の連携をよくという形の、ほんとうに互助の社会というか、そういったものを着実にやっていきたいと思っております。

幹事社： わかりました。ちなみに、10大ニュースを、市長はどれか1つ選べと言われたら、4は入れても入れなくてもですけども。

市長： 意外でしたね。一市民的で言うのであれば、フロンターレ優勝が個人的にもものすごくうれしかったのはありますけれども、やはり市長として取り組んできた、一生懸命みんなで頑張ってきたという意味では、中学校給食が一番かなと思います。思い入れが非常に強いものがあったので、川崎市にも新たな1ページになったんじゃないかなと思っております。

幹事社： わかりました。各社、どうぞ。

記者： これは手書きでいらっしゃるんですか。

市長： はい。

記者： 大分練習されて……。

市長： いや、そうでもないですけど。やっぱりだめですかね。

記者： いえいえ、やっぱりって、去年を存じ上げないので。

市長： 去年は、いきなりマジックと、色紙を渡されて書いたら、ものすごく恥ずかしい字だったので、事前に書いてきました。

記者： ちなみに、市長は投票などなさっているものなんでしょうか。

市長： いえ、しておりません。

記者： なるほど。わかりました。ありがとうございます。

記者： 一文字で「超」ということなんですけれども、あえて手前みそになるから触れられなかったのかもしれないですけども、市長選で過去の最多得票を超えたみたいなどころもあって、そういうことも込められたけれども、あえて触れなかったのかなと思ったんですけど、その辺はいかが……。

市長： それは想定していませんでしたけど、ありがとうございます。今、気づきました。

記者： あと、10大ニュースで、これ、市政的には中学校給食が入っていたりとか、あと11位に小児医療の助成を小学6年まで拡大したりとか、市長が1期目に取り組んできた政策が結構上のほうに入っていますが、これ、まだ先の話ですけども、今、

2期目に入ったんですけれども、そういうことで言うと、2期目で大きな市民ニュースに選ばれるような政策がちょっと乏しくなるのかなという感じも、この最初の定例会を聞いていても、ちょっと感じたんですけれども、その辺はどうでしょうかね。1期目は非常にインパクトの強い目玉事業がぼんぼんとあったけれども、2期目はちょっと乏しいのかなという気もしたんですけれども、その辺、どう考えておられますでしょうか。来年に向けての市政運営にもかかわることですけれども。

市長： これまでやってきた取り組みをしっかりとやっていくことが大事だと思いますので、例えば、中学校給食についても、これで全く終わりではなくて、スタートしたばかりでありますから、これをやはりさらにいいものにしていく、食育を含めて、そういう意味で、手がけてきたことを継続してちゃんとやっていく、さらに高みを目指すことが大事かなと思っていますので、新しい取り組みも、今年幾つか、また出てきますので、そういったところがまた来年のニュースの中に入れてくれば良いなと思っています。

記者： わかりました。

記者： 票数が過去最高の、10大ニュース投票結果の投票数が今年が一番多いなというところなんですけれども、明るい話題が多かったというところで、改めてその所感をお願いできますか。

市長： やっぱりフロンターレ効果、大きいんじゃないですかね。わずか5日間で、自由記載ですから、そこで1,800票を超えているというのは相当な数であると思いますから、まさにお祝いモードが10大ニュースの中で結構多かったのかなと。ほんとはよかったなと思いますね。

記者： あと、加えて1点だけ。今、市長が、一番思い入れがあったという給食の実施、それが2位にランクインしていることについてはいかがでしょうか。

市長： 率直にうれしいですし、やっぱりかかわってきた関係者も思いを同じくして非常にうれしいと思いますし、何よりも子どもさんたちが喜んでくれているのを考えると、すごくよかったというのが改めて、2位に入っていると、うれしさを感じます。

記者： ありがとうございます。

司会： よろしいでしょうか。それでは、本件につきましては終了いたします。ここで、関係理事者が退席いたします。

(市政一般)

《年末・年始の過ごし方について》

司会： 続きまして、市政一般に関する質疑応答をお願いいたします。進行につつま

しては、引き続き幹事社様、よろしく願いいたします。

幹事社： 今年最後の会見ということなので、まだ仕事納めまでちょっと日があるんですが、年末年始の過ごし方等、どのようなご予定でしょうか。

市長： 例年、変わらないんですが、別にどこに行くわけでもないので、自宅で過ごすかなというのと、3日にはライスボウルがありますので、その観戦に行くということですかね。

幹事社： 基本的に年末年始、オフだと思うので、頭をリフレッシュされるタイミングだと思うんですけども、今、市政のどの分野のことに一番思いをめぐらせようと思っっていますか。

市長： どのというか、実はすごくいっぱい考えなくちゃいけないことが多くて、宿題をたっぷり持ち込んで年末年始を過ごしたいと思うので、結構読まなくちゃいけない、考えなくちゃいけないファイルが分厚くたまっているんで、それは年内では難しそうなので、年末年始のお休みのときにやろうかなというので、何がというよりも、すごいいっぱいあるなという。

幹事社： 例えば、何ですか。

市長： いっぱいあるので、今あえて言うと、考えてないことを言われそうなので控えますけど。

幹事社： わかりました。幹事社からは以上です。

《カルッツかわさきについて》

記者： さっきの10大ニュースのところでも聞こうかと思ったんですが、カルッツかわさきの件で、市議会で、やはり一部見にくい席があるというところで、一部の席について入場券の払い戻しのようなことが起きた、そういった質問があったかと思えます。施設自体、そんなに取り立てて、すごく斬新で新しい知見が必要だった設計とは思えないんですけども、実際、できた後にああいうことが起きてしまったというのは、どういったことが考えられるのかというのと、いつぐらいまでにどういう形で解消していこうと思われているんでしょうか。

市長： 今後については、事業者とともに対応について、できる対応がどういうことがあるのかを検討していきたいと思っておりますけれども、オープン前にかさ上げ工事みたいなのを実施したということですし、これからも利用者の皆さんの意見を聞いて、例えば、出てきましたけれども、トイレのサインが見づらいとか、やっぱり人が入って動線を確認していく中で改善すべきものを改善していくことは必要なことだと思いますので、それはちゃんと事業者と相談しながら対応していきたいと思っています。

記者： 重ねてになりますけれども、できるまで何でわからなかったのかなということですね。あんまりこういうことって、私がこれまでいろんなところで取材している限り、箱物ができて、でき上がった後に、何か見つらくなって、切符を返さなきゃいけないみたいな、そういうことが起きたってあんまり聞いたことがないんですね。これ、事実関係、究明したほうがいいと思うんですよね。

市長： いや、これ、要は、返したというのを、私が聞いている範囲で言うと、公演の主催者が判断しているという話なので、別にほかの公演で返さなくちゃいけないとか、そういう話ではないので。

記者： じゃ、市としては、返すほどの支障が起きていたとは考えていないと。

市長： それはいろんな判断があるんだと思いますけれども、見えにくい席というのは、どうしても出てくるというのは、これほどのあれにもあるんじゃないでしょうか。見えにくいというか、席によって、いい位置、悪い位置というのは当然あるし、それが席のランクにもなっているんだと思いますから。

記者： わかりました。

市長： 決して、言い訳じみたような話をしているわけではなくてです。

記者： ありがとうございます。

記者： 先ほどのカルッツかわさきの内装の絡みなんですけど、かさ上げ工事もちょうと検討してみようかみたいな答弁だったと思うんですけれども……。

市長： かさ上げ工事はもう既にやっていると。

記者： やっていて、さらに施工による改善も検討するというような答弁だと思うんですけれども、そういった意味では、追加の施工みたいなものが発生する可能性もあるんですか。

市長： いや、それはまだわかりません。

記者： 仮に発生した場合というのは、負担はどちら持ちになるんですか。

市長： これはどうなんでしょうね。対応、わかりますか？

市民文化局： 市民文化局企画課、柳瀬です。費用負担については、施工する内容によって異なるため、今後、検討を行ってまいります。

市長： よろしいでしょうか。

＜鷺沼駅前の再開発について＞

記者： もう1問。議会の答弁もされたので、ちょっと気になったのであれなんですけれども、鷺沼駅の再開発で、地元の商店街とか自治会とかが、区役所とか市民館、

そういった公共施設を鷺沼駅前に移転して、あわせて、多くの区民が通えるようにバス路線をうまく拡充というか、そういったものをしてくださいみたいな要望を出されて、それに対してどうですかという答弁、真摯に受けとめて、中では検討したいという答弁だったと思うんですけども、市長にとって地元でもあって、非常に土地勘もあるし、区役所の場所もよく利用されていると思うんですけども、現時点で区役所の機能を駅前に持っていく必要があるかどうかとか、これからの検討だというのは答弁のおおりに思うんですけども、現時点ではどんな感じで考えておられるか、思っておられるかを改めてお聞きできればと思うんですけども。

市長： もうまさに検討中ということで、それこそ50年に一遍あるかないかのような大変大きな再開発の取り組みになりますので、市民にとって、特に宮前区民の皆さんにとって非常に大事な案件だと思いますので、しっかり区民の皆さん、市民の皆さんのお声というものを聞いていく中で、しっかりとした判断をしていきたいと思っています。

記者： 例えば、区役所を移すのは結構大きな判断になると思うんですけども、その選択肢もオプションの中には入れながら検討していくという、そんなイメージでいいですか。

市長： いただいているお声はさまざまあると思いますけれども、区役所もというご意見もあることは承知していますので、そういったいろんな声をこれからもしっかりお聞きしながら、せつかくの再開発ですから、みんなにとっていいものにしなくちゃいけないとは思っています。

記者： わかりました。

司会： いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355